

人口減少の状況について

1 出身地に対する意識についてのインタビュー

(1) 概要

就職時、現在、将来の3時点において、出身地（浜松市を含む）に住みたいと思うかどうか、また、その理由を聞くことで、出身地に対する意識を確認した。

◇対象 東京圏在住者を含む本市に関わりのある方

（浜松サポーターズクラブや包括連携協定締結先など、出身地や居住地を問わない）

◇期間 2023年11月24日（金）～12月13日（水）

◇方法 フォーム送付によるオンライン回答（無記名）

(2) 回答状況

対象者数：20,452人 回答者数：3,383人 回答割合：16.5%

種別	対象者数	回答者数	回答割合
浜松サポーターズクラブ等	851	152	17.9%
企業等	4,614	2,415	52.3%
大学	14,987	816	5.4%
計	20,452	3,383	16.5%

(3) インタビューの意見のポイント

■高校や大学等を卒業し、就職する際に【浜松/出身地】に住みたいと思いますか（思いましたか）。

【住みたいと思う（思った）】	【住みたいと思わない（思わなかった）】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 温暖な気候など自然環境に関する意見や大都市圏へのアクセスの良さ ・ 家族や、友人の多さなどの交友関係 ・ 都会すぎない田舎すぎない都市の性格 ・ 首都圏在住者は東京都へのアクセス ・ 自然が多く住みやすい等の自然環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出身地以外での生活を経験希望 ・ 商業施設や娯楽施設の多さ等による都市へのあこがれ ・ 交通の便や商業施設・娯楽施設 ・ 仕事面で、希望の職種がない

■【浜松/出身地】に住みたいと思ったにもかかわらず、住まなかった理由

・ 就職先の配属・転勤や、希望の職種の有無

■現在【浜松/出身地】に戻って生活したいと思えますか。

【戻って生活したいと思う】	【戻って生活したいと思わない】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族・交友関係を重視 ・ 居住環境では、自然・気候に魅力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現居住地での生活基盤の確立 ・ 現居住地の都市の利便性 ・ 現在の仕事を続けたい、希望の職種がない

■将来【浜松/出身地】に戻って生活したいと思えますか。

【戻って生活したいと思う】	【戻って生活したいと思わない理由】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族、友人が出身地にいる ・ 自然、気候やまちの雰囲気の魅力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族、友人が出身地にいない ・ 現居住地での生活基盤の確立 ・ 現居住地の都市の利便性の高さ ・ 希望の職種がない

2 本市の人口減少の現状

■総人口や人口動態（P5）

自然減が社会減に比べて大きい。

- ・ 2011 年から自然減に転じ、減少数は拡大傾向。（2022 年：-4, 254 人）
- ・ 2017 年以降、2021 年を除き社会増。（2022 年：1, 183 人）

■人口の男女比率（P11）

人口の女性比率が低い。特に 0 歳～9 歳、15 歳～29 歳の女性比率が低い。

- ・ 総人口の女性比率は政令市で下から 3 番目。（2020 年：50. 3%）
- ・ 0 歳～9 歳、15 歳～29 歳の女性比率は政令市で最も低い。

■合計特殊出生率と出生率（P23）

合計特殊出生率が高く、出生率が低いことから、合計特殊出生率の算定に用いられる 15 歳～49 歳の女性の割合が低いと推察。

- ・ 合計特殊出生率は政令市のうち 2015 年は最上位、2020 年は 3 番目。（2020 年：1. 44）
- ・ 出生率は政令市のうち 12 番目。（2022 年：6. 3）

■婚姻（P33）

未婚の女性が少ない。婚姻件数は近年大きく減少している。

- ・ 25 歳～44 歳の女性の未婚率は、政令市の中で最も低い。（2020 年：28. 1%）
- ・ 婚姻件数の減少率が政令市の中で最も高い。（2015 年：4, 056 件 2020 年：3, 193 件）
- ・ 平均初婚年齢は男女とも低く、特に女性が低い。（2022 年：29. 1 歳）

■転出超過（P43）

20-24 歳の女性が、特に東京都へ多く転出し、浜松市へ戻ってきていない。

- ・ 男性は 20～24 歳で戻る（転入超過）傾向だが、女性は戻らない。
- ・ 県内は転入超過であるが、15 歳～29 歳の若年層を中心に東京圏への転出超過が多い。

■高校や大学について（P51）

大学進学率が低く、就職率が高い。大学生の数が少ない。

- ・ 政令市の中で、高校卒業後の大学進学率が最も低く、就職率が最も高い。
- ・ 大学生数は、政令市で最も少ない。人口 1 万人あたりの大学生数は、政令市で 3 番目に少ない。

■働く場について（P59）

女性の正規の職員・従業員の割合は低いが、女性の就業率は高い。

- ・ 雇業者に占める正規の職員・従業員の割合は、女性は政令市で 14 番目と低い。
- ・ 女性の就業率は、政令市の中で最も高い。